

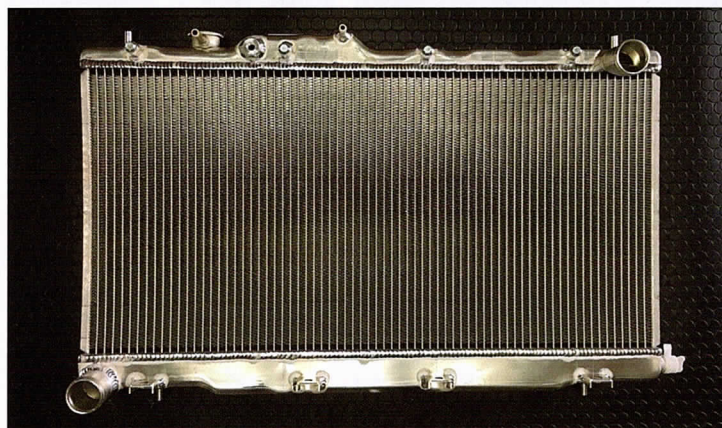
K&G

WRX用トリプルターンラジエーター

■ K & G TEL059-388-8897 <http://www.k-g-racing.com>

価格: 15万8000円(税別)

水温が心配な夏場でも走行枠をフルに走り続けて 高い冷却性能を実証

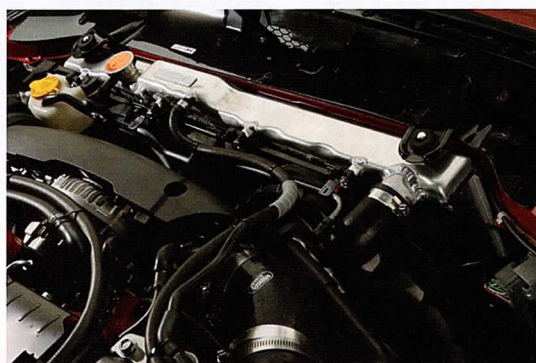


コアの冷却機能をフルに活かすトリプルターン設計

内部に隔壁を設け、水流を強制的に3循環させる、トリプルターン構造となるK&Gの新型アルミ大容量ラジエーター。コア全面をフルに使いこらすることで冷却力を強化。オールシーズンでオーバーヒートを抑え込む



従来品では純正と同じセンターにあったアッパーホースを、水流効率のよいロアホースの対角位置に変更。商品化に向けて、リザーバータンクホースの取り回しは少々改良が施される



SAサンシャイン神戸のVABでテスト まずはWRX用を開発

WRXは水温上昇が厳しい車種だ。サーキット走行を楽しむとなると、ラジエーターはノーマルのままでは難しく、たとえ大容量タイプに交換していても、気温によってはすぐにクーリング走行を余儀なくされる。

K&Gが開発を進めてきたWRX用トリプルターンラジエーターは「オールシーズンで水温を気にすることなく、サーキット走行を楽しめる冷却力」が開発コンセプト。従来の大容量タイプでも不安が

あった気温が高い季節や、発熱量が高いハイチューン車両でも、遠慮なくアクセルを踏み込める冷却パフォーマンスが追求されている。SA サンシャイン神戸のVABをテスト車両に進められた開発も、いよいよ大詰め。取材した6月6日は、岡山国際サーキットで、実走による最終チェックが行われた。

結果は上々で、気温が上がった午後からの走行テストでも、水温は及第点となる105℃以下をクリア。谷川達也選手が走行枠いっぱい走りつづけても、オーバーヒートゾーンに突入することはない冷却性能を発揮した。



C72 スーパークーリンググリッドは、高い熱交換機能とキャビテーション抑制機能により、ラジエーターの冷却力を向上させるロングライフクーラント。今回のテストでも使用された

岡山国際サーキットでテスト



手が1分45秒〜46秒台で周回を重ねても、水温は100℃で上げ止まった。谷川選手は「以前(従来モデル装着時)に比べ、水温の上昇が緩やか。走行風の抜けをよくすれば、冷却力はさらに高まるだろう」とコメント



EJ20 型エンジンは水温が105℃を超えると補正によるパワーダウンが余儀なくされる。市販化に向けての最終チェックとなったテスト当日は、谷川達也選手が、水温の上昇が緩やか。走行風の抜けをよくすれば、冷却力はさらに高まるだろう」とコメント



冷却水の沸点を上げ、気泡の発生を抑えて冷却効果を向上させるラジエーターキャップも用意。なお、トリプルターンラジエーターは、WRXに続いてZC33S スイフトスポーツやFK8 シビック タイプR 用の開発も予定されている

塗るだけで放熱効果が得られる、C72の放熱コーティング剤。未塗装のアルミラジエーターにはとくに効果的。オイルクーラーやインタークーラのほか、ミッションケースやデフケースにも有効だ

